

第3章

“V + N” (動詞+名詞) • 動詞の後に名詞あり! •

① 受動態

「動詞+名詞」(以下“V + N”で示す)のつながりは、英文構造のポイントとなるものです。受動態も“V + N”から出てくる形です。

受動態の文構造は簡単です。重要なのは「受動・能動」という考え方と、どういった場合に受動態を用いるのかということです。

§1 受動態とは

“S + be + P.P.”の形の英文のことを受動態といいます。

受動態

➡ 行為主体が不明であったり、
行為主体を明らかにしない場合に用いる

これが受動態に関する基本的な考え方です。

「I like baseball. を受動態に書き換えなさい」という問題は、S (行為主体) が明らかですから、設問自体が受動態の本質に反しているとも言えます。ですから、この英文を Baseball is liked by me. 「野球は私によって好かれている」と書き換えたとすれば、日本語もおかしくなります。

① 「この国では英語を話している」→ English is spoken in this country.

この場合、「誰が～」という行為主体を特に問題にしていないので、適切な英文だと言えます。この文を、they や people などを S にして能動態の文に書き換えると意味が変わってしまいます。

§2 「られる」と受動態との関係

日本語の「られる」と英語の受動態とは ➡ 必ずしも一致しない

ということに注意しなくてはなりません。

① the vase broken by him → 「彼が壊した花瓶」

これを無理に「彼によって壊された花瓶」とする必要は必ずしもありません。また、逆に

① 「財布を盗まれた」→ Someone stole my wallet.

の場合は、受動態を用いなくて someone を主語にします (☞ 本章・③・§3)。

§3 “S + be + P.P.” + by X

She is loved by me. という形の英文が存在しないわけではありません。“I love her.”とは意味が異なり、by me によって、わざわざ主体 (me ← I) を明示したため、意味の重点が by ～に移り、主役が変わって、

「ぼくこそが彼女を好き」・「あの女性が好きなのはぼくなんだぞ」という感じになります。by の **基本意味** 「二者が接近して合体できず差を残す」から、by 以下が分かれて客観性をもつことにより強調される感じ (☞ 第1章・①・⑩)

“by ～”の部分は、受動態の“S + be + P.P.”の後に必ず続くものではありません。“by ～”は受動態とは別の部分として考えます。

“by X”には ➡ “not by Y”の部分が隠れている

のだと考えておいてください。上の文では、たとえば“not by you”が隠れていて「きみではなく、ぼくが～」という感じになります。

次の文章はある場面の冒頭の部分です。

Reading

By eight o'clock everything was ready. Slowly the stream of people began to leave the village, silent and depressed, stared at by those who were staying behind.

～, stared at by those who were staying behind.

意味の重点が、by によって by 以下に移り、「後に残る人たちは～」と主役が変わる感じをつかみます。「後に残る人によって見られていた」としても意味は一応わかりそうですが、無理に「られる」とすることはあり